

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲 1 5 - 5 (電 話) 0 8 9 8 - 5 5 - 2 0 1 1
管理者	渡部 賢之
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 19 年 10 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 26 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 30 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	13 人
常勤	13 人
非常勤	人
常勤換算	13 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	24,000 円		その他の経費（月額）	円
敷 金	有（ ）円 ○ 無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 15 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	名	女性	17 名
要介護 1	1 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 77 歳	最高 95 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは運営法人の介護老人施設の敷地内にあり、周囲は山、田畑や川など豊かな自然に恵まれている。居室と共用空間は窓を多く取り、外光と爽やかな風を一杯に取り入れることができ、健康的でゆったりとした生活を支えている。笑顔で健やかな日々を過ごすことを理念の中心に置き、利用者からその様子がうかがえる。地域行事への参加、保育所や小中学校との交流を積極的に行い、ホームと利用者が地域で孤立しないよう努めている。介護計画はアセスメントを基に定期的なケア会議、カンファレンスなどで意見やアイデアを出し合い、個別のプランを作成し

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

外部評価の結果を活かして、新たに自家用車の購入と必要量を満たす容量の冷蔵庫への買い替えにより、利用者の外出と豊かな食生活の支援に取り組んでいる。なお、改善計画表を作成した上で計画的に取り組む、状況を記録することが望ましい。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

評価の意義や目的を理解し、管理者と職員全員で自己評価を行っている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員等を招いて、ホームの紹介、利用者の生活状況、活動報告等について詳細な資料を提供して質疑応答を行い、参加者から要望、助言等をもらっている。その上で次回開催に向けての課題を提示し、運営推進会議でホームの質の向上につなげる努力をしている。平成18年、19年と年1回ずつしか開催できていないため、2か月ごと等定期的な開催を望む。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

第三者委員、3名の家族代表を含めた苦情処理委員会を運営法人内に設置し、苦情処理箱設置と共に家族に意見や苦情の表出を促している。意見や苦情が出されていない状況なので、家族が思いや要望を出しやすい関係づくりなど更なる工夫を期待する。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

地域の自治会に入会し町民運動会や文化祭に参加している。また、保育所や小中学校の運動会や集会にも参加し交流を図ったり、絵手紙の定期的な指導や利用者の誕生会に地域のボランティアに来てもらい、地域で利用者が暮らし続けられるよう、連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう1階

記入者(管理者)

氏 名 渡部 賢之

評価完了日 平成 19 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様、癒される空間づくりを心掛けている。 (外部評価) 事業所独自の基本理念として、分かりやすい具体的な表現の理念を作成しているが、地域密着型サービスの役割が盛り込まれていない。	※	地域活動に積極的に参加して交流を図っているが、制度改正により新たに加えられた方針の地域密着型サービスの役割を示す文言を盛り込むなど、理念の見直しに取り組むことを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 管理者と職員は理念を共有し、更に職員が自主的に考えた月間目標を立てて居間に掲示し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れている。夏祭りなども地域住民参加型でおこなっている。瑞鳳荘便りも制作しているが定期的な制作、送付とはなっていない。	※	年4回程度、瑞鳳荘便りの制作、発送をしたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 気候の良い時には積極的に、散歩や買い物などに出かけるようにしている。最近では、近所の農家の方より、野菜の差し入れなども多くなってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小・中学校の運動会や集会、町民運動会や文化祭等、出来る限り参加している。 (外部評価) 自治会に入会し、地域の運動会や文化祭、また、小中学校の運動会や行事に参加したり、絵手紙の指導や利用者の誕生会に地域ボランティアに来てもらうなど、地元の人々との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 市町村合併に伴い玉川町も今治市となったが、出来る限り旧玉川町の住民の優先的な入居に心掛けている。また災害などの際には高齢者や住民の緊急避難場所としての役割もあると考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価も職員全員で行い、その意義、必要性を説明し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。自己評価を行う事により、自分たちの介護等を見直す、再認識する良い機会となっている。 (外部評価) 自己評価は管理者が作成し、職員がチェックし意見を述べてまとめている。外部評価はその結果を活かして、自家用車の購入と大きい容量の冷蔵庫の買い替えを行い、利用者の外出支援など柔軟なサービスの提供や豊かな食生活を支援している。改善状況は記録していない。	※	改善計画表を作成し、状況を記録してホームの質確保・向上を確認することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は実施したが、回数、内容的にもまだまだ不十分である。	※	定期的な実施と内容の充実に取組みたい。
			(外部評価) 家族、市担当者、地域代表、地域包括支援センターなどを招き、ホーム開設時からの資料、データを準備して、参加者から意見や要望を出してもらい、次回開催に向けての課題を提示し、サービスの質の向上に活かしている。参加者の都合もあり2か月毎の開催ができていない。	※	管理者は運営推進会議を開催する意義を認識し、参加メンバーの多様化や開催時間の検討など柔軟な工夫により、2か月ごとに定期的に開催することを望む。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今治市地域福祉活動計画玉川地区座談会等各種会議には出来る限り出席するようにしている。		
			(外部評価) 地区座談会などの会議に参加するとともに、市担当者とは週1回程度会う機会を持ち、ホームの実情報告や課題解決を図るよう努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見制度の内容や必要性など、職員にも説明している。		権利擁護事業活用者も1名おり、今後は成年後見制度も検討しながら近々権利擁護事業者、地域包括支援センター、瑞鳳荘職員で話し合いを持つ予定である。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても早期発見、対処するようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約には十分な時間を取り話し合うようにしている。また、個人情報利用についても説明し同意書を交わしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 預かり金報告は毎月の利用料金請求時に書面にて行っている。 (外部評価) 金銭出納簿と領収書のコピーを毎月郵送しているが、金銭出納簿の確認印は得ていない。また、カラーのホーム便りを作成し、個人情報利用の同意書を得たうえで送付することになっている。	※	今後は利用者の暮らしぶりが分かりやすいように定期的に便りを制作し発送したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。 (外部評価) 市社協職員、利用者家族代表者などのメンバーで構成された苦情処理委員会、ホーム内に苦情処理箱を設け、家族に伝えている。開設以来、意見や苦情は出されていない。	※	さらに、家族の訪問時や運営推進会議を活かして意見や要望を家族代表として表出する機会があることを伝えたり、面接や訪問時の話し合いの中から思いを汲み取るなどの工夫と取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、また同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 7. 5時間の勤務時間の中、7種類の勤務体制をとり、利用者の生活時間帯に対応できるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 開所から現在までの移動、退職者数は8名であり、18年度以降は3名となっており、馴染みの関係が作られている。 (外部評価) 開設当初は複数の離職もあったが、現在までの1年間は落ち着いている。ホーム近隣地区からの職員を多く採用し、職員同士の良好な関係づくりに努めるなど異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者においては各場面においてはスーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している (外部評価) 外部研修は市社協の勉強会等に参加し、内容をケア会議で報告している。内部研修として管理者及び有資格者がスーパーバイザーとして指導、アドバイスしながら職員の段階に応じて質の向上、育成に努めている。多方面の外部研修参加に意欲はあるができていない。現在は5名が介護福祉士、ケアマネジャーの資格取得を目指している。	※	資格の取得も積極的に実施させている。また、介護職員の研修の参加を増やしていきたい。 内部研修だけでなく外部研修を受講する機会を確保していく取り組みを期待する。なお、今年度は5名の職員がそれぞれ資格取得に向けて挑戦するので、成果を期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に所属して勉強会に参加したり、他のホームや福祉施設と交流しているが、職員同士の懇親にとどまり、見学や研修など相互の質の向上に向けた取り組みやネットワークづくりには至っていない。	※	同業者との交流を、研修を含めた双方向の交流としてネットワークをつくり、互いのホームのサービスの質の向上を図ることを望む。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 情報だけでなく、悩みやストレスも皆で共有し、個々の蓄積とにならないように配慮すると共に会話や親睦の機会も定期的に作るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得が可能な職員には積極的に受験させるようにしている。また有資格者においては各場面においてはスーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。 (外部評価) 本人や家族にホームを見学してもらったり、自宅等を訪問して面接するなど、馴染みながらのサービス開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 個々の利用者の生活歴を把握した上で、生活の様々な場面で戦争の経験や花の名前を教えてもらったり、経験を活かして調理の下ごしらえや味付けを教えてもらうなど、ともに支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際、及び訪問にて入居者の近況を報告、また介護計画の説明をし、ご家族からの意見、要望を確認し反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないように速やかに職員が介入するようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居される場合でも関係者とは、現在の生活状況その経緯等、書面も含め十分説明するようにしている。また退居後も入居者、家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 生活歴をもとにコミュニケーションを大切にし、コミュニケーションの難しい利用者には日々の観察や傾聴を心がけ、ケア会議で意見やアイデアを出し合い、本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来る事を少しずつ増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員の意見交換、情報交換ができるようにしている。また、ケアチェック表を作成し家族と共にサービス計画書も確認できるようにまとめている。 (外部評価) アセスメントをもとにケアチェック表を記録し、日頃の関わりの中での思いや要望を把握し、週1回のケア会議で意見交換やアイデアを出し合い、それらを反映した個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 適時モニタリングを行い、再アセスメントし、必要時には、家族、医師を交えてのカンファレンスを実施し介護計画の変更も行うようにしている。 (外部評価) ケアチェック表やケア会議で出される新たな状況や変化を話し合い、カンファレンス、モニタリングを行い、現状に即した新たな計画を作成し、家族のサインをもらっている。ただし、定期的な見直しは3か月となっている。	※	状態が安定している利用者の場合も、変化の兆しに予防的に対応するために、月1回程度は新鮮な目で計画を見直すことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、また申し送りノートを作成し職員個人個人がチェックするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。 (外部評価) 帰宅時の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 母体施設はもとより駐在所、市役所にも入居者名簿を提出し協力を要請している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の入退居時だけでなく普段から、支援センター、居宅介護支援事業所とは連絡を密に行うようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見制度の内容や必要性など、職員にも説明している。		権利擁護事業活用者も1名おり、今後は成年後見制度も検討しながら近々権利擁護事業者、地域包括支援センター、瑞鳳荘職員で話し合いを持つ予定である。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。 (外部評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医への受診に同行し、主治医と相談して適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続して受診し症状に応じて心療内科精神科の受診も行い指導を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員も2名配置し、また各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合でも面会、様子観察を頻回に行うようにし、適時家族、医師との話し合いも行うようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し早めに病院受診を行うようにしている。また場合に応じて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 (外部評価) 重度化や終末期の方針について、入居時に家族と話し合っている。本人の状態により、主治医と相談の上でホームでの看取り、特別養護老人ホームなどの利用等について最適な方法を検討する仕組みになっている。看取りのマニュアルを作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し早めに病院受診を行うようにしている。また場合に応じて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 現在、重度化した場合における対応の指針は作成中であるが、ユニットごとの夜勤者の配置も出来ていない。	※	現在医療連携体制加算の算定に向けて調整中であり、今後はターミナルケアにも取り組んでいきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入退院時の説明、同意を確実に行う事はもとより、医療機関入院時にも生活状況やADL等について詳細に書面も作成し話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 生活歴等を十分に把握し個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また職員間での介護等の相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 職員はプライバシーを損ねないよう日々の介護や声かけに配慮している。採用時に個人情報に関する誓約書を提出し、職員間での助言、注意もその都度行い、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせ、自由な時間の入浴を行っている。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の業務の遂行より、入居者のペースを重視している。 (外部評価) 基本的な1日の流れはあるが、利用者は食後もそれぞれのペースでゆったりと過ごすなど、職員の都合を優先していない。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒に服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員、入居者共に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 食材の買い物に利用者と一緒にいたり、一緒に収穫した自家栽培の季節の野菜を献立に取り入れ、利用者の経験を活かして味付けなど相談しながら準備している。利用者と職員が共におしゃべりしながら食事し、配膳、下膳も利用者に自主的にしてもらっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 週に一度は買い物日を設け、おやつ等、好みの物が手に入るように心掛けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をもとに個別的にトイレ誘導を実施し、自主的に行かれる方は清潔保持に注意している。排泄の確認は、特にプライバシーに留意しつつ行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重しつつ好きな時間に入浴が出来るようにしている。また毎朝定時にバイタルチェックを行い、入浴前にはもう一度体調確認するようにしている。 (外部評価) 入浴時間を決めず、毎朝バイタルチェックを行い、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、入浴直前にも再度体調を確認して、入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごすように促し、可能な限り戸外での活動、散歩なども実施し、また、自分のペースで生活が送れる様配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行う様にし、菜園での農作業も出来る限り手伝ってもらっている。また、近隣住民（ボランティア）指導のもと、絵手紙、装飾小物制作のクラブ活動もある。 (外部評価) 日々の生活の中で洗濯や掃除、また、畑での農作業も手伝ってもらったり、犬を飼い、犬好きな利用者が世話をしている。月1～2回地域のボランティアに指導してもらって絵手紙、手芸クラブもあり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが、買い物の際などは預かり金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけている。 (外部評価) 利用者の希望により、ホーム周辺を散歩して自然を楽しんだり、スーパー等に買い物に行き希望の物を購入したり、外食やシーズン毎の花見、紅葉を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 市、学校行事には積極的に参加するようにしており、季節ごとのお花見やドライブなども実施している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしている。また入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 近隣の家族だけでなく、ご近所さんであった人の訪問や、遠距離に住む親族からの電話や、手紙なども増えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止はもとより、言葉の拘束廃止にも心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は一切鍵をかけず、夜間帯で職員の人数確保が難しい時のみ玄関の鍵をかけるようにしている。 (外部評価) 日中は鍵をかけずに見守りを行い、夜間のみ、職員の人数確保が困難なときに鍵をかけることもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者と共に生活、行動し安全に配慮しているが、夜間は2ユニットに夜勤者が1人しか配置できていない為、十分な安全確保とはなっていない。	※	各ユニットごとに夜勤者14名を確保できるよう現在調整中である。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁等の刃物類、薬剤などは鍵のかかる場所にて保管しているが、それ以外は自由に使用できるようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンス時、個々の対処方法を看護師が具体的に指導するようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回防火、避難訓練を実施している。平成19年3月27日、8月29日にも、四国通信建設、なた寺地区消防団を交えて夜間想定での避難訓練と消防設備の点検確認を行った。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回防火訓練、避難訓練を行っており、平成19年度は夜間想定での避難訓練・消防設備点検確認を実施した。連絡網を作成しているが、避難の際のマニュアルは作成していない。避難訓練の際に近隣住民の協力は得られていない。	※	管理者は地域の消防団員であり、隣接する同法人の職員の協力が得られるなどの利点はあるが、ホーム独自の災害対策マニュアルを作成し、近隣住民の協力をお願いしての避難訓練を行うことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) グループホームで生活していく中でのリスク、自由に暮らしていただくための事故などのリスクは契約時、また状態変化があった時など十分に説明、相談するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の記録は処遇記録に詳細に記入し、異常と判断した場合は申し送りノートに記入し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、職員全員に副作用など説明するようにしている。また、特変があれば速やかに看護師医師に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や副作用にも注意している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診するようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節の食材や自家栽培の野菜を利用し、入居者と共に献立を作り、また、毎回の食事、水分摂取状況はチェックし記録するようにしている。 (外部評価) 栄養士が立てた献立をもとに、自家栽培の季節の野菜を使い、栄養バランスと彩りのよい食事を提供し、食事・水分摂取量を記録して、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルがあり、それによって手指消毒、施設内消毒等行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材の利用や加熱処理を確実に行うようにしており、食中毒防止のマニュアルもあり、随時施設内研修も実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先の植え込みだけでなくプランターには季節の花が咲くように心掛け育てている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスやキッチンの入り口には手作りの暖簾をかけている。また、フロアー内には花壇から花を取ってきて生けたり、手作りの小物を壁やカウンターに飾りつけたりしている。 (外部評価) 食堂、居間は広々としており、窓を大きく取っているの で、緑の山々や田畑を望むことができ、太陽光や風が たっぷり入り明るく健康的である。光はカーテンで調節 している。職員室として使用している和室も開放的で 利用者が自由に利用できる。廊下も明るく、手すりを付 け安全である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 職員室は畳の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンスや位牌、仏壇だけでなく、犬や動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 利用者それぞれの好みのぬいぐるみ、手芸品や絵手紙作品など飾っているが、カーテンも一律であり、使い慣れた馴染みのものがあまり見られない。	※	利用者の事故防止に配慮している場合もあるが、家族とも話し合いながら、利用者の好みや馴染みの物を用意し、より居心地のよい居室になるよう工夫することを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ポータブルトイレの掃除や窓の開閉はこまめに行い、居室ごとの換気扇の確認や温度調節は特に注意し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保のため手すりが設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の視線に合わせて、自室やトイレの表示をしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	これまでの生活歴を把握し、コミュニケーション、傾聴を大切にしました、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者間の衝突しかけていた個性も時間と関わりの中で中和されてきている所も見受けられ皆表情が明るくなり、笑顔の時間が多くなっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気の合うもの同士での交流外出の機会を作ったり、定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけているが外出時の安全確保との兼ね合いもあり、自由な外出とはなっていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	内科医師が2週間に1度、整形外科医師が1週間に1度往診してくれており、また看護職員も2名配置し、いつでも体調面など相談できるようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。また、それぞれの行動には理由があることを認識し、介護にあたっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居者の生活時間帯であれば何時でも面会可能であり、また何でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域住民の来荘も自由であり、小中学生の訪問や気軽なボランティアも積極的に受け入れている。絵手紙の先生は馴染みの関係となっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民、地元関係者とは以前より、関わりを深めるように心掛けており、運営推進会議を通してだけではないと思う。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	当事業所は職員の年齢層は広いが職員関係は良好であり、おしゃべりも、笑い声も多いと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症により判断しにくい表情（笑顔が多くなっている）の変化により
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族との話し合いの中で出来るだけこの事業所でと言ってくれているが実際の所は判断困難である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

愛と笑顔自然がいっぱい、癒しの環境の中、自由に暮らして頂く、それが私たちの願いです。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう2階

記入者(管理者)

氏 名 渡部 賢之

評価完了日 平成 19 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様、癒される空間づくりを心掛けている。 (外部評価) 事業所独自の基本理念として、分かりやすい具体的な表現の理念を作成しているが、地域密着型サービスの役割が盛り込まれていない。	※	地域活動に積極的に参加して交流を図っているが、制度改正により新たに加えられた方針の地域密着型サービスの役割を示す文言を盛り込むなど、理念の見直しに取り組むことを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 管理者と職員は理念を共有し、更に職員が自主的に考えた月間目標を立てて居間に掲示し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れている。夏祭りなども地域住民参加型でおこなっている。瑞鳳荘便りも制作しているが定期的な制作、送付とはなっていない。	※	年4回程度、瑞鳳荘便りの制作、発送をしたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 気候の良い時には積極的に、散歩や買い物などに出かけるようにしている。最近では、近所の農家の方より、野菜の差し入れなども多くなってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小・中学校の運動会や集会、町民運動会や文化祭等、出来る限り参加している。 (外部評価) 自治会に入会し、地域の運動会や文化祭、また、小中学校の運動会や行事に参加したり、絵手紙の指導や利用者の誕生会に地域ボランティアに来てもらうなど、地元の人々との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 市町村合併に伴い玉川町も今治市となったが、出来る限り旧玉川町の住民の優先的な入居に心掛けている。また災害などの際には高齢者や住民の緊急避難場所としての役割もあると考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価も職員全員で行い、その意義、必要性を説明し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。自己評価を行う事により、自分たちの介護等を見直す、再認識する良い機会となっている。 (外部評価) 自己評価は管理者が作成し、職員がチェックし意見を述べてまとめている。外部評価はその結果を活かして、自家用車の購入と大きい容量の冷蔵庫の買い替えを行い、利用者の外出支援など柔軟なサービスの提供や豊かな食生活を支援している。改善状況は記録していない。	※	改善計画表を作成し、状況を記録してホームの質確保・向上を確認することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は実施したが、回数、内容的にもまだまだ不十分である。	※	定期的な実施と内容の充実に取り組みたい。
			(外部評価) 家族、市担当者、地域代表、地域包括支援センターなどを招き、ホーム開設時からの資料、データを準備して、参加者から意見や要望を出してもらい、次回開催に向けての課題を提示し、サービスの質の向上に活かしている。参加者の都合もあり2か月毎の開催ができていない。	※	管理者は運営推進会議を開催する意義を認識し、参加メンバーの多様化や開催時間の検討など柔軟な工夫により、2か月ごとに定期的に開催することを望む。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今治市地域福祉活動計画玉川地区座談会等各種会議には出来る限り出席するようにしている。		
			(外部評価) 地区座談会などの会議に参加するとともに、市担当者とは週1回程度会う機会を持ち、ホームの実情報告や課題解決を図るよう努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見制度の内容や必要性など、職員にも説明している。		権利擁護事業活用者も1名おり、今後は成年後見制度も検討しながら近々権利擁護事業者、地域包括支援センター、瑞鳳荘職員で話し合いを持つ予定である。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても早期発見、対処するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約には十分な時間を取り話し合うようにしている。また、個人情報利用についても説明し同意書を交わしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 預かり金報告は毎月の利用料金請求時に書面にて行っている。	※	今後は利用者の暮らしぶりが分かりやすいように定期的に便りを制作し発送したい。
			(外部評価) 金銭出納簿と領収書のコピーを毎月郵送しているが、金銭出納簿の確認印は得ていない。また、カラーのホーム便りを作成し、個人情報利用の同意書を得たうえで送付することになっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。	※	さらに、家族の訪問時や運営推進会議を活かして意見や要望を家族代表として表出する機会があることを伝えたり、面接や訪問時の話し合いの中から思いを汲み取るなどの工夫と取組みを期待する。
			(外部評価) 市社協職員、利用者家族代表者などのメンバーで構成された苦情処理委員会、ホーム内に苦情処理箱を設け、家族に伝えている。開設以来、意見や苦情は出されていない。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、また同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 7. 5時間の勤務時間の中、7種類の勤務体制をとり、利用者の生活時間帯に対応できるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 開所から現在までの移動、退職者数は8名であり、18年度以降は3名となっており、馴染みの関係が作られている。 (外部評価) 開設当初は複数の離職もあったが、現在までの1年間は落ち着いている。ホーム近隣地区からの職員を多く採用し、職員同士の良好な関係づくりに努めるなど異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者においては各場面においてはスーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している (外部評価) 外部研修は市社協の勉強会等に参加し、内容をケア会議で報告している。内部研修として管理者及び有資格者がスーパーバイザーとして指導、アドバイスしながら職員の段階に応じて質の向上、育成に努めている。多方面の外部研修参加に意欲はあるができにくい。現在は5名が介護福祉士、ケアマネジャーの資格取得を目指している。	※	資格の取得も積極的に実施させている。また、介護職員の研修の参加を増やしていきたい。 内部研修だけでなく外部研修を受講する機会を確保していく取り組みを期待する。なお、今年度は5名の職員がそれぞれ資格取得に向けて挑戦するので、成果を期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に所属して勉強会に参加したり、他のホームや福祉施設と交流しているが、職員同士の懇親にとどまり、見学や研修など相互の質の向上に向けた取り組みやネットワークづくりには至っていない。	※	同業者との交流を、研修を含めた双方向の交流としてネットワークをつくり、互いのホームのサービスの質の向上を図ることを望む。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 情報だけでなく、悩みやストレスも皆で共有し、個々の蓄積とにならないように配慮すると共に会話や親睦の機会も定期的に作るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得が可能な職員には積極的に受験させるようにしている。また有資格者においては各場面においてはスーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。 (外部評価) 本人や家族にホームを見学してもらったり、自宅等を訪問して面接するなど、馴染みながらのサービス開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切に、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 個々の利用者の生活歴を把握した上で、生活の様々な場面で戦争の経験や花の名前を教えてもらったり、経験を活かして調理の下ごしらえや味付けを教えてもらうなど、ともに支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際、及び訪問にて入居者の近況を報告、また介護計画の説明をし、ご家族からの意見、要望を確認し反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないように速やかに職員が介入するようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居される場合でも関係者とは、現在の生活状況その経緯等、書面も含め十分説明するようにしている。また退居後も入居者、家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 生活歴をもとにコミュニケーションを大切にし、コミュニケーションの難しい利用者には日々の観察や傾聴を心がけ、ケア会議で意見やアイデアを出し合い、本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来る事を少しずつ増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員の意見交換、情報交換ができるようにしている。また、ケアチェック表を作成し家族と共にサービス計画書も確認できるようにまとめている。 (外部評価) アセスメントをもとにケアチェック表を記録し、日頃の関わりの中での思いや要望を把握し、週1回のケア会議で意見交換やアイデアを出し合い、それらを反映した個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 適時モニタリングを行い、再アセスメントし、必要時には、家族、医師を交えてのカンファレンスを実施し介護計画の変更も行うようにしている。 (外部評価) ケアチェック表やケア会議で出される新たな状況や変化を話し合い、カンファレンス、モニタリングを行い、現状に即した新たな計画を作成し、家族のサインをもらっている。ただし、定期的な見直しは3か月となっている。	※	状態が安定している利用者の場合も、変化の兆しに予防的に対応するために、月1回程度は新鮮な目で計画を見直すことを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、また申し送りノートを作成し職員個人個人がチェックするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。 (外部評価) 帰宅時の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 母体施設はもとより駐在所、市役所にも入居者名簿を提出し協力を要請している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の入退居時だけでなく普段から、支援センター、居宅介護支援事業所とは連絡を密に行うようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見制度の内容や必要性など、職員にも説明している。		権利擁護事業活用者も1名おり、今後は成年後見制度も検討しながら近々権利擁護事業者、地域包括支援センター、瑞鳳荘職員で話し合いを持つ予定である。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。 (外部評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医への受診に同行し、主治医と相談して適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続して受診し症状に応じて心療内科精神科の受診も行い指導を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員も2名配置し、また各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合でも面会、様子観察を頻回に行うようにし、適時家族、医師との話し合いも行うようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し早めに病院受診を行うようにしている。また場合に応じて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 (外部評価) 重度化や終末期の方針について、入居時に家族と話し合っている。本人の状態により、主治医と相談の上でホームでの看取り、特別養護老人ホームなどの利用等について最適な方法を検討する仕組みになっている。看取りのマニュアルを作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し早めに病院受診を行うようにしている。また場合に応じて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 現在、重度化した場合における対応の指針は作成中であるが、ユニットごとの夜勤者の配置も出来ていない。	※	現在医療連携体制加算の算定に向けて調整中であり、今後はターミナルケアにも取り組んでいきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入退院時の説明、同意を確実に行う事はもとより、医療機関入院時にも生活状況やADL等について詳細に書面も作成し話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 生活歴等を十分に把握し個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また職員間での介護等の相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 職員はプライバシーを損ねないよう日々の介護や声かけに配慮している。採用時に個人情報に関する誓約書を提出し、職員間での助言、注意もその都度行い、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせ、自由な時間の入浴を行っている。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の業務の遂行より、入居者のペースを重視している。 (外部評価) 基本的な1日の流れはあるが、利用者は食後もそれぞれのペースでゆったりと過ごすなど、職員の都合を優先していない。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒に服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員、入居者共に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 食材の買い物に利用者と一緒にいたり、一緒に収穫した自家栽培の季節の野菜を献立に取り入れ、利用者の経験を活かして味付けなど相談しながら準備している。利用者と職員が共におしゃべりしながら食事し、配膳、下膳も利用者に自主的にしてもらっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 週に一度は買い物日を設け、おやつ等、好みの物が手に入るように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をもとに個別的にトイレ誘導を実施し、自主的に行かれる方は清潔保持に注意している。排泄の確認は、特にプライバシーに留意しつつ行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重しつつ好きな時間に入浴が出来るようにしている。また毎朝定時にバイタルチェックを行い、入浴前にはもう一度体調確認するようにしている。 (外部評価) 入浴時間を決めず、毎朝バイタルチェックを行い、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、入浴直前にも再度体調を確認して、入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごすように促し、可能な限り戸外での活動、散歩なども実施し、また、自分のペースで生活が送れる様配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行う様にし、菜園での農作業も出来る限り手伝ってもらっている。また、近隣住民（ボランティア）指導のもと、絵手紙、装飾小物制作のクラブ活動もある。 (外部評価) 日々の生活の中で洗濯や掃除、また、畑での農作業も手伝ってもらったり、犬を飼い、犬好きな利用者が世話をしている。月1～2回地域のボランティアに指導してもらい絵手紙、手芸クラブもあり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが、買い物の際などは預かり金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけている。 (外部評価) 利用者の希望により、ホーム周辺を散歩して自然を楽しんだり、スーパー等買い物に行き希望の物を購入したり、外食やシーズン毎の花見、紅葉を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 市、学校行事には積極的に参加するようにしており、季節ごとのお花見やドライブなども実施している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしている。また入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 近隣の家族だけでなく、ご近所さんであった人の訪問や、遠距離に住む親族からの電話や、手紙なども増えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止はもとより、言葉の拘束廃止にも心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は一切鍵をかけず、夜間帯で職員の人数確保が難しい時のみ玄関の鍵をかけるようにしている。 (外部評価) 日中は鍵をかけずに見守りを行い、夜間のみ、職員の人数確保が困難なときに鍵をかけることもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者と共に生活、行動し安全に配慮しているが、夜間は2ユニットに夜勤者が1人しか配置できていない為、十分な安全確保とはなっていない。	※	各ユニットごとに夜勤者14名を確保できるよう現在調整中である。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁等の刃物類、薬剤などは鍵のかかる場所にて保管しているが、それ以外は自由に使用できるようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンス時、個々の対処方法を看護師が具体的に指導するようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回防火、避難訓練を実施している。平成19年3月27日、8月29日にも、四国通信建設、なた寺地区消防団を交えて夜間想定での避難訓練と消防設備の点検確認を行った。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回防火訓練、避難訓練を行っており、平成19年度は夜間想定での避難訓練・消防設備点検確認を実施した。連絡網を作成しているが、避難の際のマニュアルは作成していない。避難訓練の際に近隣住民の協力は得られていない。	※	管理者は地域の消防団員であり、隣接する同法人の職員の協力が得られるなどの利点はあるが、ホーム独自の災害対策マニュアルを作成し、近隣住民の協力をお願いしての避難訓練を行うことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) グループホームで生活していく中でのリスク、自由に暮らしていただくための事故などのリスクは契約時、また状態変化があった時など十分に説明、相談するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の記録は処遇記録に詳細に記入し、異常と判断した場合は申し送りノートに記入し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、職員全員に副作用など説明するようにしている。また、特変があれば速やかに看護師医師に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や副作用にも注意している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診するようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節の食材や自家栽培の野菜を利用し、入居者と共に献立を作り、また、毎回の食事、水分摂取状況はチェックし記録するようにしている。 (外部評価) 栄養士が立てた献立をもとに、自家栽培の季節の野菜を使い、栄養バランスと彩りのよい食事を提供し、食事・水分摂取量を記録して、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルがあり、それによって手指消毒、施設内消毒等行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材の利用や加熱処理を確実に行うようにしており、食中毒防止のマニュアルもあり、随時施設内研修も実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先の植え込みだけでなくプランターには季節の花が咲くように心掛け育てている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスやキッチンの入り口には手作りの暖簾をかけている。また、フロアー内には花壇から花を取ってきて生けたり、手作りの小物を壁やカウンターに飾りつけたりしている。 (外部評価) 食堂、居間は広々としており、窓を大きく取っているの で、緑の山々や田畑を望むことができ、太陽光や風が たっぷり入り明るく健康的である。光はカーテンで調節 している。職員室として使用している和室も開放的で利用 者も自由に利用できる。廊下も明るく、手すりを付け 安全である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 職員室は畳の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや位牌、仏壇だけでなく、犬や動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 利用者それぞれの好みのぬいぐるみ、手芸品や絵手紙作品など飾っているが、カーテンも一律であり、使い慣れた馴染みのものがあまり見られない。	※	利用者の事故防止に配慮している場合もあるが、家族とも話し合いながら、利用者の好みや馴染みの物を用意し、より居心地のよい居室になるよう工夫することを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ポータブルトイレの掃除や窓の開閉はこまめに行い、居室ごとの換気扇の確認や温度調節は特に注意し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保のため手すりが設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の視線に合わせて、自室やトイレの表示をしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	これまでの生活歴を把握し、コミュニケーション、傾聴を大切にしました、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者間の衝突しかけていた個性も時間と関わりの中で中和されてきている所も見受けられ皆表情が明るくなり、笑顔の時間が多くなっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気の合うもの同士での交流外出の機会を作ったり、定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけているが外出時の安全確保との兼ね合いもあり、自由な外出とはなっていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	内科医師が2週間に1度、整形外科医師が1週間に1度往診してくれており、また看護職員も2名配置し、いつでも体調面など相談できるようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。また、それぞれの行動には理由があることを認識し、介護にあたっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居者の生活時間帯であれば何時でも面会可能であり、また何でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域住民の来荘も自由であり、小中学生の訪問や気軽なボランティアも積極的に受け入れている。絵手紙の先生は馴染みの関係となっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民、地元関係者とは以前より、関わりを深めるように心掛けており、運営推進会議を通してだけではないと思う。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	当事業所は職員の年齢層は広いが職員関係は良好であり、おしゃべりも、笑い声も多いと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症により判断しにくい表情（笑顔が多くなっている）の変化により
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族との話し合いの中で出来るだけこの事業所でと言ってくれているが実際の所は判断困難である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

愛と笑顔自然がいっぱい、癒しの環境の中、自由に暮らして頂く、それが私たちの願いです。